

岡山県立

博物館だより

77号

- 特別展を終えて……………②③
- 交流展を終えて……………④
- 企画展を終えて……………⑤
- 新規事業……………⑤
- 教育普及事業……………⑥⑦
- 博物館 NEWS……………⑧
- INFORMATION……………⑧



〈特別展 邪馬台国の時代より〉
 国宝「平原王墓出土 超大型内行花纹鏡(11号鏡)」
 (文化庁蔵・糸島市立伊都国歴史博物館管理)



〈企画展 戦国サムライアート変わり兜より〉
 「蟹形兜」(岩国美術館蔵)



〈特別展 昭和モノ語りより〉
 「三種の神器 一白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫一」
 (岡山県立博物館蔵)



〈交流展 坂本龍馬と幕末の土佐より〉
 「坂本龍馬湿板写真」(高知県立歴史民俗資料館蔵)

特別展「昭和モノ語り —人々の暮らしと岡山—」

会期：平成24年8月3日（金）～9月17日（月・祝）

平成も四半世紀を過ぎ、昭和は振り返られる時代となりました。この展覧会では、戦前・戦中・戦後で大きく変化した私たちの生活の様子を、衣食住、交通、産業、子どもに関するモノで体感していただくとともに昭和時代の岡山の大きなできごとを紹介しました。入館者数（10,877名）

5章構成の展示に懐かしい映像資料が加わって



洗濯板から電気洗濯機へ、家電の登場は生活を変えました。昭和30年代の町をイメージしたイラストからは、サザエさん一家のような温かいだんらんが聞こえてきそう・・・

第1章「昭和の岡山」では、昭和天皇即位奉祝の様子、国体開催や瀬戸大橋開通など本県64年のあゆみを振り返りました。展示室でお客様を迎えたのは、唯一の本県出身横綱「常ノ花寛市立像」で、作者は本県出身の平藪田中です。このように郷土のヒーロー・ヒロインも取り上げ、また昭和時代の地震、台風などの災害についても当時の記録から改めて考えました。「人々の暮らし」と題した第2章では、白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫の『三種の神器』をはじめとした生活用品を羽釜から電子炊飯ジャーへという道具の移り変わりがわかるように展示しました。また東京オリンピックや大阪万博など国家の大プロジェクトもポスター等で振り返りました。第3章、第4章は「岡山の交通と産業」をテーマに現在では見られない軽便鉄道や宇高連絡船、干拓前の児島湾漁業の様子等をご覧いただきました。子どもに焦点をあてた第5章では、展示室に2人掛の机・イス等で教室を再現し、当時の教科書やビー玉、リカちゃん人形、ファミコンといった玩具が大人を子ども時代へ誘いました。またRSK、(株)山陽映画のご協力により、展示物の隣で当時の貴重な映像を放映し、モノの動く様子をリアルに感じていただきました。



3世代で観覧中

紙芝居屋さんも昭和の車もニュースの記者さんもやってきた！

期間中3世代、4世代で楽しめる関連行事を実施しました。蚊帳に入ったり、足踏みミシンを動かしたりする「昭和の暮らし体験日」には、「テネシーワルツ」などのレコードを蓄音機で聴いたり、原動機付自転車でやってきた紙芝居さんの紙芝居をみたりする時間を設けました。

また、ダイハツミゼットやマツダコスモスポーツ等の昭和



紙芝居さんがやってきた

時代の名車8台もやってきました。そして、展示室でも放映したニュース映像を、当時取材した放送局の記者さんのトークを交えて鑑賞する会も開催しました。手動の道具を懐かしむおじいちゃんとともに新鮮な感動を覚える孫、昔の子どもも今の子どもも見入った紙芝居、子どもも大人も昭和を体感した行事でした。

展覧会を終えて

「認知症の義母に見せたら懐かしんでくれると思った。会期中に連れてきたい。」(60代女性)とアンケートにあるように、この展覧会には、親御さんの車イスを押したり、手をひいたりして観覧される方が多く、また老人福祉施設の皆様にも大変多くのご来館をいただきました。他にも「テレビなどでみた昭和の風景を懐かしいともあの頃に戻りたいとも思わなかった自分が、展示を見ることによって初めて昭和の空気を体感し面白いと感じた。」(高校生)「自分の生まれる前のものについて親から話を聞けたりして楽しかった。自分が小さい頃家で使っていたものも展示されており複雑な気分もあった。」(30代女性)「生活をモノを通してふりかえることで技術の進歩を感じた。昔の良さをなんとか残していきたい。」(40代男性)「自分の生きた時代を振り返り今後の平和を願うことができた。」(70代女性)と多くの感想が寄せられました。



昭和の車がやってくる！

「懐かしい。」の他にも昭和のモノが語ることはあると信じて展覧会を準備しましたが、まさに一人ひとりが様々な見方、感じ方をされ、私たちも新たな発見ができた展覧会でした。(学芸員 信江啓子)

特別展「邪馬台国の時代 吉野ヶ里、唐古・鍵から纏向まで」

会期：平成24年10月19日（金）～11月25日（日）



岡山市街地の東部を流れる人工河川、百間川の河川敷周辺には百間川遺跡群が広がっています。百間川遺跡群は特に弥生時代後期（約1,800年前）の広大な水田跡が見つかったことで全国的に知られています。本年度は百間川遺跡群の発掘調査が始

まって35周年にあたり、これを記念して百間川遺跡群を含む吉備の弥生時代を取り上げる展覧会を開催しました。

また、弥生時代は中国の歴史書である『魏志倭人伝』に登場する邪馬台国が日本列島のどこかに存在した時代でもあります。その所在地を巡って多くの論争が繰り広げられ、現在も決着を見ていません。なかでも北部九州と大和がその二大候補地とされます。本展覧会ではこれら邪馬台国に関わる北部九州と大和の遺跡を紹介しながら、邪馬台国の時代における吉備の位置付けにも迫りました。

3章構成で邪馬台国の実像をさぐる

今回の展示は3章で構成しました。北部九州・吉備・大和の各地域から出土した資料を選りすぐり、その数は国宝9件、重要文化財18件を含む200件となりました。いずれも、各地域を代表する名品を揃えることができました。

第1章の北部九州においては多くの青銅器やガラス製品を展示しました。中でも、今回の展示の目玉となった福岡県平原遺跡出土の超大型内行花文鏡は、国宝に指定され



吉備の特殊器台 展示解説

るとても貴重なものです。その直径は46cmをほこり、日本で最大の青銅鏡として大変見応えのあるものでした。

続く第2章の吉備は北部九州と大和の中間に位置し、両地域とは異なる文化の形成された場所です。今回の展示では岡山市百間川遺跡群の他、倉敷市上

東遺跡や岡山市津寺遺跡など、吉備を代表する遺跡からの出土品を一堂に集めました。そんな吉備の展示物の中でも目玉となったのは特殊器台です。これは弥生時代後期の吉備南部で発達した葬送儀礼（葬式）専用の土器とされ、その上に壺を載せる台として使用されたと考えられています。



特別講座



古代の鏡をつくろう！

て使用されたと考えられています。今回の展示では、この特殊器台を来館者の皆様に見てもらえるよう展示しました。迫力の大型土器や埴輪に、皆様満足の様子でした。

そして第3章、大和では邪馬台国畿内説における邪馬台国所在地の筆頭候補に挙げられる纏向

遺跡出土品の他、奈良県黒塚古墳出土の三角縁神獸鏡など、初期の前方後円墳に関わる資料を多数展示しました。三角縁神獸鏡は中国皇帝から卑弥呼に与えられた鏡ではないかと考えられており、邪馬台国と初期ヤマト王権の活動に深く関連するとされます。

大盛況だった関連イベント

期間中は邪馬台国に関する講座や特別講演、ミニチュアの鏡を作る古代体験など様々なイベントを開催しました。特別講座「邪馬台国研究最前線」では桜井市教育委員会の橋本輝彦氏、岡山大学大学院教授の松木武彦氏、福岡市埋蔵文化財調査課の常松幹雄氏の3人をお迎えし、最新の調査成果に基づく邪馬台国像についてお話をいただきました。また、記念講演会として兵庫県立考古博物館長の石野博信氏をお招きして、40年以上に渡る邪馬台国研究の成果をご披露いただきました。いずれの講座や講演会も満員となり、皆様メモを取りながら熱心に聞いておられたのが印象的でした。

展覧会を終えて

期間中は8,360名もの来館者をお迎えすることができ、また、図録も期間中に完売し、大盛況となりました。今後も古代吉備の魅力を紹介する展覧会を企画していきたいと思ひます。

（学芸員 和田 剛）

平成24年度岡山・高知文化交流事業 坂本龍馬と幕末の土佐

会期：平成25年1月5日（土）～2月11日（月・祝）



香川県、島根県と続いた当館の文化交流事業は、平成24年度からは高知県と行うこととなりました。

交流1年目は、高知県立歴史民俗資料館の全面的な協力を得ながら、明治維新の原動力となった幕末の志士坂本龍馬の人物像と尊王攘夷から

大政奉還、そして明治維新へと至る幕末の土佐藩の動きを紹介しました。また、当時の岡山において坂本龍馬と関わりのあった人物についても紹介しました。

貴重な実物資料がずらり

展示資料は、全部で60点です。最も注目される資料は「坂本龍馬湿板写真」で、坂本龍馬の最も有名な写真のガラス製原板です。原則として高知県外へ出ることのない資料ですが、交流展ということで特別に許可を得て期間限定で展示しました。この資料のために、東京や山形、長崎などから来館された方もいました。龍馬の手紙は全部で12通展示しました。桂小五郎の依頼で薩長同盟を証明した手紙のように歴史上の事件や人物を記したものが一方、自由奔放な筆致とユーモアあふれる言葉遣いで書かれた家族への手紙も多く、その人柄が伝わってくるようでした。

幕末の土佐藩の歴史は、土佐勤王党総帥の武市半平太の資料を中心に紹介しました。わずか数年の間に栄光と挫折を味わう彼の生涯は、幕末の土佐藩や激動の日本を象徴するものでした。

また、龍馬ゆかりの岡山藩士として、中岡慎太郎の日記から龍馬と会談したことが知られる岡山藩周旋方の津田弘道の資料や、龍馬の名が記された岡山藩家老伊木三猿齋の家臣近藤定常の資料を紹介しました。

ボランティアも活躍の関連行事

会期中には、関連行事として記念講演会とワークショップ、ボランティア



記念講演会



龍馬のメタルフィギュアつくろう！

による展示ガイドを実施しました。霊山歴史館（京都市）の木村幸比古学芸課長による講演会は、「龍馬の人脈」というテーマで、龍馬に影響を与えた人物や当時活躍した人物について、興味深いエピソードを交えてお話いただきました。当日は230人が集まり、2階の特設会場にもいっぱいでした。ワークショップ「龍馬のメタルフィギュアを作ろう！」には17組の小学生の親子が参加しました。高知県立歴史民俗資料館からお借りしたオリジナルの鋳型で龍馬のフィギュアをつくり、コンパウンドを使ってピカピカに磨き上げました。友の会ボランティアによる展示ガイドは、展覧会の理解が深まったと今年も好評を得ました。

展覧会を終えて

期間中9,655人の方にご来館いただき、坂本龍馬と土佐（高知）の興味深い歴史を楽しんでいただきました。高知県立歴史民俗資料館をはじめ本展覧会にご協力いただきました関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

（主幹 竹原伸之）

交流展「刀 武士の魂」

会期：平成24年10月6日（土）～11月4日（日）

高知県立歴史民俗資料館では、高知・岡山文化交流事業として、「刀 武士の魂－備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣－」が開催されました。本展では、岡山県立博物館が誇る備前刀の名品をはじめ、土佐藩の藩主内家や志士ゆかりの刀剣など約80件が展示され、高知県では質・量ともに過去最大規模の刀剣展となりました。また、会期中には講演会や展示解説、

現代刀匠による古式鍛錬の実演などが行われ、多くの参加者でにぎわいました。

（学芸員 佐藤寛介）



本館学芸員による展示解説

企画展「戦国サムライアート変わり兜」

会期：平成24年4月26日（木）～6月3日（日）



本展では、最近の戦国武将ブームの影響により、甲冑への関心が高まっていることから、「変わり兜」と呼ばれる奇抜なデザインの兜を中心に、岡山ゆかりの甲冑の名品など44件を一堂に展示しました。

会期が端午の節句とゴールデンウィークの時期でしたので、会場には子ども連れの来館者も多く、奇想天外な兜の数々に、展示室のあちこちで驚きの声があがっていました。

さらに、本物の兜の着用体験ができる「歴史体験★本物の兜をかぶってみよう！」や、着用できるダ



ダンボールでマイ甲冑をつくろう！

ンボール製の甲冑をつくるワークショップ「ダンボールでマイ甲冑をつくろう！」など、展覧会の内容にあわせた多彩な関連行事を実施し、いずれも大勢の参加者で賑わいました。

本展には8,676名もの来館者をお迎えすることができました。今後もこのような魅力的な展覧会を企画してまいりますので、こう御期待ください。

(学芸員 佐藤寛介)

吉備の国文化遺産映像記録作成事業

今年度より3カ年計画で進めていく吉備の国文化遺産映像記録作成事業です。

岡山県立博物館では岡山の歴史と文化の情報発信を柱に、年間の展示、さまざまな教育普及事業に於いて活動しています。特別展、企画展も現在



では多分野から岡山の歴史と文化をとらえ、時代の変化にも対応し、近年では学校対象の事業も増えました。学校現場での授業なども行い、年間の利用校も年々増えています。その際に補助教材として、展示テーマに沿って概観できる映像資料、また博物館へ来館された方への、展示観覧の理解を深める映像資料として作成することを大きなねらいとして企画を行いました。

主な内容は博物館所蔵の資料の紹介および、代表的な展示テーマに基づき、岡山の歴史と文化を概観できるものを構成の柱としています。一年毎に10のテーマを企画し、構成した映像記録の内容は、岡

山県立博物館で年間で展示する各分野、民俗や工芸、備前焼等のテーマに基づいた代表的な館蔵資料の紹介とそのテーマに関わる歴史を最新技術の鮮やかな映像によって紹介しています。また、来館される方に向けての内容や児童、生徒向けと使い分けができ



るように、キャラクターが登場し、案内するバージョンも作成しています。これらはすべて、岡山県立博物館のホームページから配信しており、いつでも視聴可能です。今年度の岡山の歴史と文化の10のテーマをぜひご鑑賞ください。

(学芸員 鈴木力郎)

教育普及事業の概要

平成24年度も教育普及事業を様々な形で、また興味のわくメニューを企画し、実施しました。概要は次のとおりです。

館内授業・出前授業



展示解説



バックヤードの見学

本館で実物資料に触れ展示の見学を行う「館内授業」、学芸員が実物資料を持参し、学校で実施する「出前授業」は大変好評で、今年度も多くの学校に御利用いただきました。展示会にあわせての展示見学、テーマに基づいた授業を中心に、博物館のバックヤードの見学も好評です。大型エレベーターや燻蒸の設備など、初めて目にするものに関心を寄せていました。また、考古や民俗の分野・備前焼を中心に、出前授業も多数実施し、年間に29校の利用がありました。



古代吉備の世界



昔のくらしの体験

学芸員による展示解説

毎週土曜日の午後2時から、学芸員が展示内容の解説を行いました。展示会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しました。今年度も毎回多くのお客様にお聞きいただきました。



「特別展 邪馬台国の時代」展示解説

中学生職場体験 博物館実習

今年度もチャレンジワークとして岡山市内の中学校2年生(7校20名)が博物館業務を体験しました。博物館に入ってみて、想像以上に大変な学芸員の仕事やその厳しさを感じたようです。8月には学芸員をめざす県内外の大学生10名が博物館業務の実習

と、特別展の関連行事などで博物館活動を支援する実習に取り組みました。実際に来館者への対応などに、工夫しながら取り組んでいました。



職場体験(掛け軸の取扱い)



職場体験(刀剣の取扱い)



博物館実習(昭和のくらし体験日支援)



博物館実習(考古資料の取扱い)

吉備の国ジュニア歴史スクール

平成21年度からの事業、「吉備の国ジュニア歴史スクール」も4年目を迎えました。今年度は江戸時代の教育体験、戦国武将と山城体験の2コースで実施しました。第1日目として備中松山城に登った赤磐市立軽部小学校、磐梨小学校、城南小学校と、旧閑谷学校を訪れた総社市立総社西小学校、昭和小学校、維新小学校の子どもたちは、第2日目として館内で実物資料に触れながら授業を行い、展示会も見学しました。第3日目として、各学校で2日間の成果をもとに学習のまとめを行いました。新聞作りや発表会等、工夫を凝らしたものでした。今年度の様子を報告集にまとめ、県内のすべての小学校へ配布しました。



〈江戸時代の教育体験コース〉
閑谷学校での講堂学習



〈戦国武将と山城体験コース〉
備中松山城での記念写真



〈江戸時代の教育体験コース〉
博物館での館内授業



〈戦国武将と山城体験コース〉
学校での成果発表会



〈江戸時代の教育体験コース〉
学校での発表会



24年度報告集

博物館講座

県民一般を対象に、「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座で、スタンダードコース・スペシャルコースを開講しました。



スタンダードコース



スペシャルコース

前者は、学芸員により平素の研究成果を博物館資料に基づいて8講座を学習するもので、6月に110名が受講されました。後者は、各研究の第一人者等外部講師をお招きし、より専門的に4講座を学習するもので、7月～10月の月1回、77名が受講されました。

「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう！」

5月5日には「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう！」を実施しました。よろいと小袖ともに計24組の親子が参加され、実際に着用して本物の持つ質感や迫力などを感じてもらい、楽しい一日になりました。



いきいき講座

博物館と高齢者福祉施設との連携事業（「博福連携事業」）として平成22年度より「いきいき講座」を行いました。蚊帳や羽釜などの懐かしい道具を使い、体験や思い出を語り合う「回想法」を導入したもので、「館内講座」「出前講座」「展



出前講座



館内講座

示解説」を実施し、博物館と福祉の現場との交流を図りました。また、今年度は3カ年の集大成として県内の博物館、資料館、市町村の文化財・高齢者福祉担当者、高齢者福祉施設職員を対象に「回想法を取り入れた博物館、資料館と高齢者福祉施設等の連携」をテーマに研修セミナーを実施しました。

（主任 國政信弘）



岡山県立博物館 蔵
岡山後援会 蔵



報告書（8ページのうちの4ページ）

新収蔵資料「牧野家資料」

幕末維新期の岡山藩において、国事周旋や藩論の統一に活躍し、慶応3（1867）年の京都二条城での列藩会議では薩摩の小松帯刀や土佐の後藤象二郎と共に岡山藩を代表して大政奉還論を提唱したことで知られる人物に牧野権六郎（1819～69）があげられます。

この度、その本家筋である牧野宇右衛門家から伝来する貴重な甲冑・刀剣・文書類等合計90件の資料の寄贈をしていただきました。

甲冑は、江戸時代の具足と呼ばれる質実剛健な実戦向きのもので、大変保存状態のよいものです。刀剣は、刀が一振と脇差が三振で、いずれも牧野家伝来のものとして歴史的価値が高く評価されました。また、文書類には寄贈していただいた85点のうち、約半数が江戸期のもので、牧野家代々の奉公を記した「御奉公之品書上」や「牧野家先祖覚書」・「牧野家略系図」・「御城御番心得帳」等がありました。残りは、明治時代以降の牧野家の書状でした。

これらの資料のうち、甲冑については、平成24年度岡山・高知文化交流事業『坂本龍馬と幕末の土佐』において展示し、多くの観覧者の方々に御覧いただきました。

（副館長 島崎 東）



牧野家伝来甲冑

INFORMATION

●●●●● 平成25年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 栄西禅師800回忌記念事業「栄西」
会期 平成25年4月19日（金）～5月19日（日）

特別展 郷原漆器復興25周年・備中漆復興20周年記念事業
瀬戸内国際芸術祭2013関連事業・おかやま教育の日協賛事業
「Japan - 漆の世界 -」
会期 平成25年10月11日（金）～11月17日（日）

企画展 美作国建国1300年記念事業 「美作の名宝」
会期 平成25年7月25日（木）～9月1日（日）

交流展 岡山・高知文化交流事業 「土佐の水とくらし - 四万十川の漁を中心に -」
会期 平成26年1月1日（水）～2月16日（日）



（複製）栄西禅師坐像
（岡山県立博物館蔵
原品：鎌倉市 寿福寺蔵）



玉楯象谷 紅花緑葉鞍
高松平家歴史資料
（香川県立ミュージアム保管）

岡山県立博物館だより 第77号
発行日/平成25年3月6日
発行者/岡山県立博物館 館長 田村 啓介

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5
TEL：086-272-1149 FAX：086-272-1150
URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。